

ユニットアクターズ 98年8月公演台本

ゆけ！ 海外老年協力隊

作 萬野 展

登場人物

- 今藤美津夫 海老協隊長。八十七歳。男性。
- 福村翔太 海老協隊員。八十八歳。男性。
- 迫田力丸 海老協隊員。元弁護士。八十一歳。男性。
- 青山豊 海老協隊員。八十二歳。男性。
- 観音崎武雄 海老協隊員。八十九歳。男性。
- 木村頼子 天才学生。十八歳。女性。
- 池上庄司 ユエ・プロジェクトのメンバー。政府高官。三十七歳。男性。
- 乃木貴士 ユエ・プロジェクトのメンバー。財団の管理人。三十六歳。男性。
- 岸田・マイセン・桐子 国連代表。四十二歳。女性。
- 高瀬川莊平 海外ボランティア斡旋業者。三十六歳。男性。
- 加久藤利明 元暴力団員。四十七歳。男性。
- 河原林佐和子 シルバーホーム「あしび」介護アルバイト。二十五歳。女性。
- 綿貫光一 常設国連軍少佐。三十八歳。男性。
- 久能条一郎 常設国連軍軍曹。二十九歳。男性。
- 国枝史郎 国枝観光社社長。三十歳。男性。
- ジアラ (JR) シルバニアの民。二十二歳。女性。
- リンドウ (りんどう) シルバニアの民。十九歳。女性。
- チカリイヤア (いかりや) シルバニアの民。十六歳。女性。

ユニットアクターズ プロットサンプル2

*タイトルは仮題
ゆけ！ 海外老年協力隊

概括

感動お笑い路線。近未来。ある老人ホームのジジイどもが、ひよんなことから内戦火を吹く中央アジアの小さな国へ。巻き起こる争乱と冒険と早寝早起き。怒濤の国連脱退と再独立宣言。愛と感動と老醜の物語。

中身っぽいこと 基本的には、日本のジジイたちと、現地の住民たちがいる。

日本のジジイたちは、最初はある小さな老人ホームにいる。

彼らは疲れていて、覇気がない。どうせもうすぐ逝くのだ、と世をすねている。

介添人として、若い女の子なんかがいるとよい。

若い女の子は、別にボランティアに情熱を傾けているわけではなく、単にバイトとして、最初はわりと冷たい感じで接している。

ジジイたちにはそれぞれの過去があつて、役に立たない特技とかがあるといい。考えられるのは、

・昔小劇場芝居をやっていたジジイ

・昔刑事だったジジイ

・昔オタク（電気関係）だったジジイ

・昔犯罪者だったジジイ

ETC：

などである。ジジイは最低5人くらいは欲しい。

まず、日本から始まった話は、強引に中央アジアの小国に飛ぶ。

老人たちが、なぜか海外協力隊として海外に行く羽目になってしまう。

理由はまだ考えつかないが、敢えて言うなら「あれよあれよという間に」というのが理由である。このへんは導入部としてテンポよく展開したい。

メインの舞台は中央アジアの小国。電気も水道もない、とんでもない未開の地である。

この国はもともと国家という意味の国ではない。単に寄り集まって暮らしているだけの集団だった。たぶんなにかの陰謀で国にさせられてしまったのだ。

このあたりには複雑化する国際社会の力関係がどうのこうのというウンチクがある。しかし頭の古い老人たちにはよく理解できない。

とにかくこの国の原住民たちを、少しでも文化的にするのだ。

原住民は日本語をしゃべれない。

10個くらいしかない単語で生活している。

ジジイたちは仕方なくそれを覚え、原住民たちもジジイの日本語を覚えて、カタコトのコミュニケーションが成立する。

不可思議な独自文化を持つ原住民たちと、昭和生まれの日本のジジイたちの、文明開化の日々が始まる。

革命が起こる、あるいは周囲の国の陰謀が破綻して見捨てられそうになり、原住民たちが立ち上がる、などの理由で、ただのボランティアアジジイだったはずが、新国家建設の任務を背負ってしまう。

元刑事ジジイは司法長官、元小劇場ジジイは外務卿、とかいう感じ。(役職名はそれぞれ好きなようにつけているので、統一がとれないことおびただし)

周囲はすべて敵。日米英露は見えて見ぬ振り。

半端な知識とむやみに長いだけの経験と、ナチュラルな原住民たちのスピリットが渾然一体となつて、のどかで奇怪でアグレッシブな新興国家は、着々とできあがっていく。10個の単語にカタコトの日本語が混ざった新言語で、もはや彼らは自在に高度な会話を交わすことができるのだ。

外圧をはねのけ、懐柔し、強行し、内政を総攬し、教育を充実する。

ジジイたちは思う。

もし生き甲斐というものがない、残り少ない人生にあるなら、それはここにある、と。

あるジジイと原住民の若い女の恋なんかがサイドストーリーとしてあるといい。介添人の女もついてきてくれるかもしれない。あるいは前作の飯室的な立場でもよい。

派手なシーンは必要。

革命戦や独立戦争のようなもの。

新興国家に対する内外の圧力を、機略と勇気で切り抜ける。

ジジイたちはもはや、この国を作る政治家であり、この国を奮い立たせる思想家であり、この国を守る戦士なのだ。

あいかわらずヨボヨボだけど、原住民(今や彼らの国民)にとって、彼らはまぎれもないヒーローであった。

こういう話は、明るくハッピーに終わってはいけない。

ハッピーは舞台上ではなく、生活のなかに帰っていく客のために残しておく、そういう雰囲気のものが、今は好まれる。

したがって、ジジイは全員生き残って終わるけど新国家は幻と消えなければいけない。

原住民たちは、国家という幻想を失い、かわりに遠い東の、島国の翁たちとの友情という、思い出の果実だけを手に、何事もなかったかのようにジャングルに帰っていく。

そしてジジイたちは、広大な自然をあとに、自分たちが作り上げた国家の遺跡から、埃っぽく狭苦しいニッポンに帰っていくのだ。

もちろん、立ち上がるときは「どっこらせ」と言いながら。

帰っていくところで終わりたい。

ジジイたちが本当にニッポンにたどり着いたのかどうか、そこをボカして終わるのがいいと思う。

話の骨子とキャラクター

□ 少し未来の時代。

国連独裁制。

石油資源など重要な物資や資源は私有を許されず、国連の管理下に置かれている。

私有が許されるのは知的所有権のみ。

科学の発展の時代は終焉を迎えている。

重要な科学的発見はほとんど出尽くしてしまった。

すべてはわかってしまったか、わからないということがわかってしまった。

もう新しい発見はない。

残されたのは知識を応用することだけ。

□ 木村頼子はそういう時代の天才少女である。

電子工学、生物学、物理学、その他あらゆる理系科学の分野で驚異的な能力を持つているため、世界中の科学機関から助成金、奨学金が集中している。

彼女が何かを発明すれば、所属する団体の知的所有権が認められるからである。

□ 頼子はそういう現実にはやうんざりしている。

岸田桐子は国連を牛耳っている。

彼女は国連のみならず、三星財閥を中心とする企業集団の中核に位置している。

彼女は国連や財閥を超えた、大規模なプロジェクトの一員である。

□ ユエ・プロジェクト。

ユルティム・エスポワール（最後の希望）の頭文字をとって名付けられたこのプロジェクトは、人類の最後の夢を実現するため、一世紀近くの間、人知れず存続してきた。

その夢とは、すなわち「不老不死」である。

桐子は、当初はそのプロジェクトに、現実味を感じていなかった。

馬鹿馬鹿しいおとぎ話だと思っていた。

しかしいま彼女は、自分の代でこのプロジェクトの目的が達成されるのではないかと見込んでいる。

シルバニア国連管理地域に不老不死の民族が住んでいるという未確認情報もたらされたとき、ユエ・プロジェクトは眠りから醒めた。

□ シルバニアに対する極秘調査が始まり、それは主に三星財閥の手によって行われた。

調査の本当の目的は、一握りの人間しか知らない。

乃木貴士は、三星の若きエリートであり、シルバニア地域の調査に関わってきた。

乃木はユエ・プロジェクトのメンバーの中では最も若く、それが実現される可能性をまったく信じていない。

老いた権力者たちの遊びでしかないという認識である。

ところが、地域の調査中、この地域に重要な資源が眠っていることがわかる。新しい半導体素子の原材料となる鉱物である。

量産すれば、世界中の電子計算機が、現在の数百倍の速度で動くことになる。そのきわめて珍しい鉱物が大量に眠っている可能性を、乃木は知る。所在が明らかになれば、経済的不均衡を避けるため、国連の所有にかかることになる。

乃木は、国連の管理の外、すなわち闇ルートでそれを売りさばくことで、巨利を得ることを計画する。

もともと、シルバニアに関する調査はユエ・プロジェクトの一環であり、国連といえども容易にそれを知ることができないようにブロックされている。

乃木はそれを逆手にとつて、国連にも、そしてユエに関わる直接の司令者である桐子にも真の計画を明かさずに、シルバニア掌握を進めようとする。

乃木にとつても、ユエの執行者桐子にとつても、必要な第一歩。

それは、まずはシルバニアを国連管理地であることから脱せしめ、三星が自由にできる傀儡国家をその地に樹立すること。

□ 乃木の計画のパートナー、高瀬川莊平は、乃木の中学時代からの友人である。大樹に寄つてエリートコースを順調に歩む乃木と表裏をなすように、高瀬川は野にあつて次々と新事業に手を染め、違法ギリギリの線できわどいゲームを繰り返してきた。

高瀬川には独特の臭覚が備わっている。利をかぎ分け、危険を察知し、膨らんだりリスクがはじけ飛ぶほんの一瞬前にそこからいなくなる。

高瀬川と乃木は、ずっと気の合う親友同士であつたし、表の乃木に対して裏の高瀬川と、その役割を互いに利用し合つてきたところも大いにある。

今回、高瀬川を海外ボランティア業者に仕立て、国連の目を眩ましつつ三星の金でシルバニアに人間を送り込む計画を立てたのは、高瀬川である。

乃木の権力と高瀬川の裏の人脈が、計画を可能にしている。

結局のところこのふたりは、どれだけ年をとつて権力と金を手にしても、コンピニの前でしゃがんでタバコを吸つて、「なんか面白いこと」を探していた「マブダチ」のままなのかもしれない。

□ とにかく、彼らの計画は発動し、「海外老年協力隊」は、三星財団の最高顧問である桐子の裁決のもとに実行にうつされることになる。

河原林佐和子は、老人介護ホーム「あしび」で働いている独身女性である。

ホームで働きだして五年。続かない職業である介護員としてはベテランの域である。

元来世話好きで、働きぶりが小気味よい女性である。

べたつかず、かといって素っ気なくもない対応の良さで、ホームの老人たちとうまくやっている。

木村頼子は、佐和子の姪である。木村家に嫁いだ佐和子の姉の子が頼子である。頼子が子供のころ、佐和子とよく遊んだ。

佐和子が三桁の数を出鱈目に言つていき、十個くらい言い終わったら頼子がすかさずその積を言うという、佐和子にとってはあんまり面白くない遊びなどをした。

頼子はどちらかという人付き合いの悪い娘だが（たとえば父親とはほとんど口をきかない）、佐和子にだけは腹藏ない口をきく。

佐和子は、頼子が天才であることをあまり大したことと考えていないのだ。

頼子の両親は、頼子を、言い方は悪いが金蔓扱っている部分がある。

頼子にとって、親戚とか世間というものは、別に努力して得たわけでもない能力を通してしか自分を見ないものであり、佐和子は数少ない例外に属しているのかもしれない。

頼子が高校卒業直前に、突然退学届けを（電子メールで校長宛に）出し、家を飛び出し、佐和子のアパートに転がり込んだのも、頼子にとって佐和子が特別な存在だったからかもしれない。

佐和子は頼子を受け入れ、姉夫婦には彼らの娘を自分がしばらく預かることを告げ、下宿代として頼子に「あしび」で働くことを要求する。

既に数百のパテントを所有し秒単位でロイヤリティが口座に振り込まれてくる頼子には、現金の要求より、体を動かす労働をさせたほうがいいと、佐和子は思っている。

だいたいこの子を世間は甘やかし過ぎだ、と、佐和子は思っている。

佐和子だけが、頼子を、年齢並みの女の子として扱っている。

頼子は嫌々ながらも「あしび」で佐和子の手伝いをし始める。

「あしび」は経営の危機を迎えている私立の介護施設である。

経営者は施設を手放したがっている。

経営者は老夫婦であり、妻が院長、夫が副院長を勤めている。

夫である副院長が亡くなり、経営を夫に頼っていた院長は、未亡人となったのを契機にホームの解体を決定してしまう。

「あしび」には五人の老人が暮らしている。

いずれも八十歳を越える、身寄りのない老人たちである。

ホームがなくなれば老人たちは行き場を失う。

その知らせは、まずホームのリーダー格である今藤美津夫にもたらされる。

今藤美津夫は元学校教師である。

息子を癌でなくし、妻も病気で先立っている。天涯孤独である。

彼は私立中学校の教頭でキャリアを終えた。

そのためか、何事につけ斡旋の才覚があり、集団をまとめることに慣れている。やや付和雷同型で、教師によくある近視眼的なところがあるが、常識派で他人の意見をよく聞くので、自然と老人たちのまとめ役のような位置にいる。

院長である未亡人はそこを見込んで、葬儀の日、今藤にホーム解体の告知を頼んだ。

近頃とんと物忘れの激しい今藤は、この重大な申し渡しをすっかり忘れてしまった。

葬儀の次の日からも老人たちはいつもの日常を繰り返している。

福村翔太は元鳶職人である。

東京で生まれ育った。

娘と妻を海外旅行先でなくしており、天涯孤独である。

旅行に行った先で、ホテル火災にあったのだ。

以来、彼は海外旅行というものを強く憎んでいる。再婚せず、長く現役を勤めるが、老齢のため引退を強いられる。彼は働きたかった。働かないとどうして日々を過ごしていいかわからなかったし、失った家族を思いだしてしまうのも辛かった。

老人の働き口が激減していたが、ようやくのことで、植木職につく。精出して働くが、ある風の強い日、松の枝から強風で飛ばされ、三軒先の風呂屋の煙突に激突、奇跡的に助かるも、腰を痛め、引退を余儀なくされた。以来、彼は樹木というものを強く憎んでいる。

身寄りもなく、介護施設に入る。チャキチャキの江戸っ子であり、気ぜわしくて疑り深い性格だが、情にはもろい。

時々腰が痛む以外は、彼は最も元気である。

□ 迫田力丸は元弁護士である。

若いころからいわゆる「汚れ仕事専門」で鳴らした法廷弁護士であった。明らかに有罪である事件の減刑、司法取り引き、訴訟取り下げ、示談持ち込みなど、スネに傷を持つ犯罪者なら迫田の名を知らないものはないと言われるくらいに腕が立った。

死刑を無期に、実刑を執行猶予に、腕を振るう迫田を司法官は蛇蝎の如く忌み嫌い、暴力団関係者は下にもおかぬ扱いで彼を遇した。

しかし彼自身は別に暴力的な人間でもなければ、あくどい金儲け主義の弁護士でもなかった。国選弁護人の時代にたまたま立て続けにヤクザの事件を扱い、際だった働きをした。独立してからも、いったん貼られたラベルを剥がすことができず、いつしか客はヤクザばかりの専門職になってしまった。

自分のような者もいなければ社会のバランスが取れない、と彼は自分を納得させつつ長い間、ヤクザの弁護をしてきた。法律はフェアである、というイリュージョンを維持するために彼のような存在が必要だったのかもしれない。

人からなぜ悪い者を助けるのかと問われるたび、彼はただ、彼らにも親がいて妻がいて子がいるのだ、とだけ、答えてきた。

彼自身は引退するまで独身であった。

両親は先だつており、天涯孤独。

□ 観音崎武雄は元住職である。

還俗するまで一度も妻帯せず、天涯孤独である。

坊主の息子に生まれ、そのまま特に思うところもなく坊主になった。

坊主以外の職業を経験したことがない。冠婚葬祭と檀家の世話に明け暮れた。四十を過ぎたころから、自分の信仰心に疑いを持ち始める。

以後三十年間、自分の寺を捨て仏教各派を転々とし、ありとあらゆる仏門を叩き、高僧と問答し、長い放浪の末、悟りを得た（らしい）。

何をどう悟ったのか、彼は誰にも語ろうとせず、ただ突如として齢七十にして還俗し、ただの観音崎武雄として世間に還った。仏教を極め尽くして辿り着いた境地が、仏教の外側に出るというただそれだけの行為だった。

観音崎はホームで最長老である。

まったく、どこからみても、ぜんぜん、普通の老人以上に普通で普通である。

彼は念仏も唱えない、仏壇に向かうことすらしない。

葬式があると、数珠を人から借りている。

誰も彼が仏教界では伝説の人物であることなど知らない。

□ 青山豊は元デザイナーである。

パリ・コレクションを風靡した、知る人ぞ知るデザイナー界の寵児であった。

五十数年前、アオヤマ・ユタカ・ブランドは世界を席卷した。青山が二十代の頃である。

五度の結婚と離婚。スキャンダラスな生活。

彼が三十歳の時、その生活に終わりが来た。突然の脳内出血。

ほとんど半植物状態のまま、ベッドの上で十五年が過ぎた。

意識を回復してから、喋れるようになるまでさらに五年。立って歩けるようになるまで十年。倒れてから実に三十年が経過し、退院した時、六十歳の彼の名を覚えている人間はいなかった。倒れる以前の記憶がやや曖昧になっていたことは、彼にとってはかえって幸いだったのかもしれない。

六十歳の青山は、何故か布の感触に惹かれ繊維工場の期間工として黙々と働き、退職後、介護施設に入る。

天涯孤独。

ACT 1 紙芝居の男

三星財団内、秘密のプレゼンテーション会場。
 巨大な紙芝居が据えてある。
 紙芝居の表紙には「ゆけ！ 海外老年協力隊」と、ポップな文字で書いてある。
 その傍らに男（高瀬川莊平）が立っている。
 暗がりに女性らしい人物（桐子）が座っており、その傍らにスーツ姿の男（乃木）が立っている。
 紙芝居がライトアップされ、子供番組風の音楽が流れる。

高瀬川 （一礼して） それでは始めさせていただきます。

高まる音楽。

高瀬川、紙芝居の紙を抜く。
 「日本のおとしより」と題した絵。

高瀬川 ニッポンにはおとしよりがいっぱい！ でも働く場所もなくて、毎日起きて食べて寝て起きて食べて寝ての繰り返しだヨ。

と言いつつ紙を抜く。
 食べたり寝たりしてる老人たちの絵。

高瀬川 そこで、おとしよりの知恵と経験を生かす、ナイスなアイデア。海外老年協力隊！

紙を抜く。
 シャキッと制服を着て旗を掲げた老人が胸を張って立っている。
 たなびく旗には「海老協」の文字。

高瀬川 ニッポンのお年寄りが世界で大活躍！ ボケも防げるし、ニッポンの評判も赤丸急上昇！

紙を抜く。老人を満載した飛行機が日本列島から世界に飛び立っていく絵。
 飛行機の胴体には「K.R.K」のロゴ。

高瀬川 食糧不足や労働力不足に悩む地域に喝！ ファイトイッパツ冷や水パワー。効き目バツグン知恵袋！ 亀の甲より年の功！ あたしやも少し背が欲しい！

紙を抜く。原住民の子供たちに囲まれて尊敬のmanaを受け持っている老人の絵。
 笹川会長風の、もの凄く偽善的な雰囲気。

高瀬川 豊富な人生経験を生かし、農業や工業、医療、教育に至るまで、発展途上ライフな人たちにビビッドでゴージャスなアドバイス！ リリカルでユースフルなテクニク！ 密林のご隠居、荒野のご意見番、日本が誇る世界の助っ人、海外老年協力隊！

次々に紙を抜く。
 子供に竹トンボの作り方を教えている老人。
 サバンナで餅つきをしている老人。
 象牙の箸で子供の喉をさすっている老人、等々。

高瀬川 もちろんバックアップするのは世界に誇るニッポンの複合企業体三星商事！ やるぜ三星！ ナイスだ三星！

紙を抜く。
三星商事のロゴをバックに、なぜか親指を立ててニカッと笑った金髪碧眼の白人の絵。

高瀬川 世界中の貧しい地域の人たちが、ニッポンのおとしよりを待っている！ ゆけ！ 我らが海外老年協力隊！

紙を抜く。

大平原で夕日をバックに雄々しく立っている海老協隊員。そろいの制服の背中には「海老協」のロゴと、星を三つあしらった三星商事のロゴ。

音楽が終わり、部屋が明るくなる。

高瀬川 と、まあ、こういうわけでした。

乃木 ……要するに話のポイントは？

高瀬川 つまり、えー…

乃木 (手にしたフォルダの書類をめくりつつ) 費用は全額こちらが負担するわけだね？

高瀬川 認可されればボランティアに対する助成金があります。御社にとって世界的なイメージアップに繋がることであります…

乃木 売名行為というわけだ。

高瀬川 とんでもない！ このプランは社会的に意義のあることです。現在日本の高齢化現象は末期的な様相を呈しており福祉予算が国家財政を圧迫し「寝た切り経済」などと囁かれる昨今、内外の状況を鑑み…

乃木 わかった、わかったからもう下がらなさい。

高瀬川 は。

高瀬川、頭を下げながら退場。

桐子 ……なんなのあの低脳は。

乃木 は。

桐子 話にならないわ。寝た切り爺にアフリカで井戸でも掘れって云うの。

乃木 仰せの通りかと。

桐子 あの男…、高瀬川？

乃木 高瀬川 荘平。ボランティア斡旋業者です。

桐子 身元は調べたんでしょうね。

乃木 は。相当胡散臭い人物ではありますが、胡散臭いということを除けば、特に胡散臭い点は見あたりません。少なくともヒモつきではありません。

桐子 確かでしょうね。

乃木 首に賭けても。

桐子 あなたの首なんか切っても切っても生えてくるじゃないの。

乃木 仰せの通りかと。

桐子 あなたはどう思うの。どうせ腹に一物あってあの男を連れてきたんでしょう？

乃木 会長を差し置いて私見を述べるわけにはまいりません。まいりませんが…。

桐子 おっしゃい。

乃木 ある意味、これはチャンスか、と。

桐子 ……シルバニア？

乃木 とにかく誰かをあそこに送り込まなければなりません。早急に。

桐子 それは判っている。でも………よりによって………じじい？

乃木 国連の目を誤魔化さなければなりません。それには恰好の隠れ蓑かと。

桐子 国連なんか問題じゃないの。わたしの一存でどうにでもできる。問題は…

乃木 ユエ・プロジェクト、ですな。

桐子 滅多にその名前を口にしないでちょうだい。

桐子、なおもくちびるを嚙んで考えている。

乃木 会長。ご決断を。

乃木、フォルダから書類を出し桐子の前に滑らせる。

桐子 ……

桐子、手にした巨大な承認印を、書類の上に振りかざす。

暗転。
ドォーンという轟音。

暗がりに乃木が浮かぶ。

乃木 (携帯電話をかけている) 荘平か。オレだ、乃木だ。

暗がりに高瀬川が浮かぶ。

高瀬川 (携帯電話に) 喰いついたか？

乃木 ああ。ちよろいもんだ。

高瀬川 さすがだな。

乃木 例のプロジェクトの件を持ち出せばイチコロだ。婆さん飛びついたよ。

高瀬川 ずいぶん焦ってるみたいじゃないか。

乃木 メクラになってるのさ。

高瀬川 そんなにデカイプロジェクトなのか。

乃木 ババアの妄想だよ。年には勝てないってこと。

高瀬川 ユエ・プロジェクト、か。

乃木 気をつけるよ。その名前を口にただけで消されたやつが何人もいるんだ。

高瀬川 「ユエ」ってなんのことだ？

乃木 さあ、なにかの略語らしいが。ユルタイムなんか…

高瀬川 ま、取り敢えず第一段階クリアだな。

乃木 問題はこれからだぞ。

高瀬川 まあ見てろよ。

乃木 現地の手配は？

高瀬川 国枝を使う。抜かりはないさ。

乃木 わかった。それじゃ。

高瀬川 ああ。貴士。

乃木 なんだ。

高瀬川 今夜あいてるのか。

乃木 …しばらく会わないほうがいい。

高瀬川 固いこと言うなよ。メシでもどうだ。

乃木 …中華なら。

高瀬川 任せる。じゃ、いつものホテルで。

乃木、高瀬川、退場。
暗がりに椅子に座った桐子が浮かぶ。

桐子

(携帯電話をかけている) わたしよ。ええ。乃木たちが動き出したわ。ええ、そう。あれでわたしを手玉に取ってるつもりなんだから笑わせるわ。そうね。せいぜい乗せられた振りをしているわ。ボウヤたちには甘い夢を見させておいて。そういうこと。とにかくシルバニアをpushさえるのよ。それから例の木村博士。そう。どうしても必要。問題が解けるのはおそらく木村博士だけ。なんとしても手に入れるのよ。ええ、お願い。え？…でも…いいわ。中華以外なら。それじゃ。

溶暗。

ACT 2 喪服の男たち

昼。外。
喪服姿のふたりの老人（青山と迫田）が、手を繋いでトコトコ歩いてくる。
もの凄くゆっくりとした歩き。
立ち止まる。

青山 ……いい葬式だったのう。

迫田 うん。

青山 なんとというか、暗すぎず、派手すぎず、適度にしめやかで。

迫田 ああ。

青山 今時あんな葬式にはなかなかお目にかかれん。

迫田 うん。

青山 それにしても惜しい人を亡くしたもんだ。

迫田 ああ。

青山 ……どうした、リキさん。なんか様子がおかしいな。また中風か？

迫田 いや。

青山 ならどうした。

迫田 なんだかな、この歳になっても、若いのが先に逝くとなあ、なんかやりきれん。

青山 ……。

ふたり、ちよつと黙る。

青山 ……ありやあ、同い年だろ。

また黙る。

迫田 ……そうだったかな。

青山 そうだろ。

迫田 ……いやあ、ひとつ下だ。

青山 ……そうだったかな。

またしばらく黙って考えている。

青山 いや、確か寅だろう、フクちゃんは。

迫田 うん。

青山 じゃあ、同い年だ。

迫田 違う、て。

青山 違わん、て。

迫田 違う、ちゆうに。

青山 だって寅だろう。

迫田 青ちゃんだって寅じゃろがい。

青山 わしや丑だが。

迫田 えっ。青ちゃんはわしより上か。

青山 リキさん、あんたボケたか。

迫田 ボケとらん、て。

青山 ボケとる、て。
迫田 …。

しばらく黙る。
セミの声などが聞こえる。

迫田 そんならフクちゃんも、わしよりひとつ上か。
青山 なにを云うとる。だから同じ年だと云うとろうが。
迫田 寅じゃろがい。

青山 だからフクちゃんとあんたが寅で同じ年。わしが丑でひとつ上じゃろが！
ボケとるだろ、リキさん。
迫田 …。

迫田、眉を寄せて考えている。

青山 …ところでフクちゃんて、誰かの？

迫田 (びっくりして青山を見る) 今、葬式してきたろうが。

青山 …死んだんか。

迫田 死んだんじゃ。

青山 フクちゃんか。

迫田 フクちゃんじゃ。

青山 どのフクちゃんじゃ？

迫田 どの、て、そりゃあ…どこのじゃろか…。

途方に暮れる老人たち。

青山 フクちゃん…か。

迫田 フクちゃん…じゃ。

青山 なんだ、そうだ、フクちゃんじゃろが。

迫田 わしらふたりともボケとるな。

笑いあうふたりの老人。

青山 「あしび」のフクちゃんじゃ。福村翔太。

迫田 そうそう。「あしび」じゃ。ホームじゃホームじゃ。

青山 わしらのホームにいた、あのフクちゃんじゃやないか。

青山 いやあ、すつきりしたのう。

迫田 なんかすがすがしいの。

青山 目から鱗が落ちたのう。

迫田 わしや口から入れ歯が落ちそうじゃ。

青山 それにしてもあのフクちゃんがなあ。

迫田 わからんもんじゃ。

青山 「あしび」じゃ一番元気じゃったがなあ。

笑いが止まる。

迫田 …「あしび」ってなんじゃ？

青山 今云うたばかりじゃろ。だから「あしび」じゃよ。「あしび」はわしらの…わしらの…なんだったかの…。

迫田 なんかい懐かしい響きなんじゃが…

青山 なんかい胸のあたりがキューンと締めつけられる感じがするのう。

迫田 あんたそりゃ発作じゃないか？

青山 わしやあ心臟悪いんか？

迫田 知らんがな。

青山 病院に行かなくていいんじゃないか？

迫田 知らん、ちゅうに。

青山 そういうあんたは中風じゃなかったんか？

迫田 ……そうじゃったか？ わしや中風か？

青山 そう云うてなかったかの。

迫田 あんたなんでそんなこと知つとるんじゃ。

青山 あんたこそなんで…

ふたり、見つめ合う。

迫田・青山 あんた誰じゃ？

迫田 ……わし、誰じゃろ？

青山 わしら、こんなところでなにしとるんじゃ…。

再び途方に暮れる老人たち。

同じく喪服姿の老人（福村）登場。

福村 ああ、いたいた。

青山・迫田 あ、フクちゃん。

青山、迫田、ほっとした様子で笑う。

福村 リキさん青ちゃん、駄目だよ、勝手に歩いてっちゃ。

迫田 いやあ、すまんすまん。

青山 あんまりいい陽気だったもんで。

福村 もう始まるぞ、葬式。

迫田 あ。

青山 これからかい。

福村 そうだよ。

迫田 こりや気がつかなかった。

青山 てつきり終わったもんかと…。

福村 ホラ、急いだ急いだ。

迫田 フクちゃん、ところで誰が死んだんかの…？

福村 ホームの副理事長だよ。朝から三百回くらい云ったよ。

青山 ああ。

迫田 フクちゃんじゃ。

青山 あの因業爺ついにくたばったか。いい気味だ。

迫田 すがすがしいのう。

と、云いつつ、三人退場。

中抜け

早朝。

ホーム「あしび」。

洗濯物を抱えた佐和子、登場。

佐和子 ねえ、ヨリちゃん！ ちょっと！ 手伝ってよ！

頼子、登場。

頼子 ……眠い。

佐和子 あんた夜更かしし過ぎなのよ。朝早いんだって云ったでしょ。

頼子 朝って云うか、まるつきり夜中じゃん。

佐和子 お年寄りだね、朝が早いよ。もうすぐ起きて来るんだから。

頼子 ……信じられん。こんな時間に起きていったいなにすんの？

佐和子 なるって、そりゃ見てりゃわかるわよ。ホラこれ持って。あんた今日一日手
伝う約束なんだからね。

佐和子、洗濯物の一部を渡す。

頼子 ああ眠い。あたしとしたことが早まったかなあ？（窓から外を見て）げっ、星
が出てる。

観音崎、登場。

観音崎 おはよ。

頼子 ……。

佐和子 観音崎さん、おはよう。

観音崎 おはよう佐和子さん。いやあ、すがすがしい朝じやのう。

頼子 ……星出てるっちゅうの。

観音崎 おんや？

観音崎、しげしげと頼子を見る。

頼子 ……。

観音崎 ……。

佐和子 観音崎さんはいつも一番ね。

観音崎 いやあ、わしゃあこのホームじゃ一番年寄りじゃでな、歳をとると朝が早う
なっついていかん。

佐和子 観音崎さん確か今年で…

観音崎 ええと、今年で確か…。

観音崎、じつと考えている。
頼子と目が合う。

観音崎 おんや？

頼子 …。
観音崎 …。

観音崎、口を開いてなにかを言いかける。
福村、登場。

福村 おはよう。
観音崎 フクちゃん、おはよ。
佐和子 福村さん、おはよう。
福村 おはよう。あああああ（のびをする）すがすがしい朝じゃあ。
頼子 あ、オリオン座みつけ！
福村 おんや。

福村、頼子をまじまじと見る。

福村 …。
頼子 …。

福村がなにか言いかけると、迫田と青山のコンビが手を繋いで歩いてくる。

迫田・青山 おはよ。
福村・観音崎 おはよ。リキさん。青ちゃん。
迫田 いやあ、すっかり寝坊してしもうた。
頼子 湧いてくる湧いてくる。
青山 ゆんべ寝つげなくてなあ。
佐和子 迫田さん青山さん、おはよう。
青山 佐和子さんおはよう。
迫田 今日もキレイじゃなあ。
青山 観音様のようにじゃあ。
観音崎 わしを呼んだかの。
迫田 ナンマンダブ、ナンマンダブ。
青山 あんたじゃないわい。
佐和子 なに言ってるの青山さんたら。
福村 拝むな拝むな。
頼子 順番にしゃべれ順番に。
迫田 いやあそれにしても…
老人たち すがすがしい朝じゃなあ。

老人たち、頼子に気づく。

頼子 …。
老人たち おんや？
頼子 …。

老人たち、いつせいに口を開きかける。
今藤登場。

今藤 おはよう。

老人たち あ今藤さんおはよう。

福村 今藤さん珍しく最後じゃのう。

頼子 エンドレスか。

佐和子 今藤さんおはよう。

今藤 いやあゆんべ夢見が悪くてのう。

青山 あんたまだ夢なんか見とるんか。

今藤 佐和子さんおはよう。

迫田 わしらもう夢なんぞこ十年くらい見とらんぞ。

青山 よしんば見たとしても覚えとらんしの。

今藤 それが妙にはつきりした夢じゃった。なんと観音様が出てきてわしに話しかけるんじゃ。

福村 そりやまたえらくありがたい夢じゃのう。

観音崎 誰かわしを呼んだかの？

青山 あんたじゃないと云うとるんじゃ。

今藤 いやあそれにしても…

頼子 サン、ハイ。

老人たち すがすがしい朝じゃのう。

観音崎 …さて、全員出揃ったところで、佐和子さんにこの見慣れんお嬢さんの紹介をしてもらおうかのう。

老人たち「そうじゃそうじゃ」「もういい頃合いじゃ」などと口々に賛成する。

頼子 確信犯か、あんたら！

佐和子 ヨリちゃん、自己紹介なさいな。

頼子 あたしいいよ。佐和姉ちゃん適当に云つといてよ。

佐和子 しょうがないわねえ。(老人たちに)この子はわたしの姪で頼子っていうんだけど、今日からしばらく手伝ってくれることになったの。みんな可愛がってあげてね。

今藤 ヨリちゃんか。

福村 こりやあどうもよろしく。

観音崎 いい名前じゃのう。

青山 そうか十八歳か、若いのう。

迫田 まだ誰も年齢まで云うとらんが。

今藤 青ちゃんフライングじゃな。

観音崎 本当に可愛がってしまつていいんじゃるか。

福村 あんたなにをするつもりなんじゃ。

頼子 あああうるさいっ！ 順番にしゃべれ！…ちよつと、佐和ちゃん、手伝いは今日一日だつて云つたでしよ。

佐和子 あら、だつてあんた暇なんでしよ。

頼子 そりやそうだけど…

佐和子 ずっとウチに居候するつもりなら、それなりの労働はしてもらうからね。

迫田 先が思いやられるのう。

頼子 先に云うな！

高瀬川、登場。

高瀬川 お取り込み中失礼。

誰も聞いていない。

高瀬川 えー、朝早くにすみませんが…あのう！

やっぱり誰も気づかない。

高瀬川、小さな紙芝居セットを取り出し、カランカランと鐘を鳴らす。
全員、静まって高瀬川を見る。

高瀬川 老人介護ホーム「あしび」の皆さん。おはようございます。わたくし…

高瀬川、紙芝居の紙を抜く。

そこには流麗な活字体で名刺のように「東亜ボランティア代表・高瀬川莊平」の文字。

高瀬川、白い歯を見せて笑う。

高瀬川 ……こういう者でございます。

中抜け

今藤 決まりじゃな。

福村 いやじゃ！ わしや行かんぞ！ ぜったいにいやじゃあ！

福村の叫びに飛行機の轟音がかぶる。
暗転。

ACT 3

飛行機の着陸音。

明かりがつくと、手荷物を持った五人の老人たちが、ぼう然と立っている。

高瀬川 いやあ着きましたね。

観音崎 有無を云わせぬ展開の速さじゃのう。

福村 いやじゃああ！

迫田 まだ云うとる。

今藤 しかしこりや思つた以上に暑いのを。

観音崎 年寄りにやこたえるわ。

サファリルックの男（国枝）、登場。

国枝 やあみなさん。シルバニアへようこそ。

迫田 誰じゃ？

高瀬川 国枝観光社の国枝史郎氏です。

国枝 国枝です。今日からみなさんのシルバニア生活のガイドをつとめさせていただきます。どうぞよろしく。

老人たち、口々にあいさつをする。

見当外れにも国枝に東京土産などを渡している奴もいる。

高瀬川、どさくさ紛れに退場。

国枝 これからみなさんはシルバニアの現地民と対面されるわけです。海外ボランティア

アの第一歩は、現地の人たちとのコミュニケーションの確立です。

今藤 コミニケはいいが、わしらコトバがわからんぞ。

国枝 ザッツ・ライト。そこです。シルバニア地域の現地民は、彼らだけの独自の言語を使います。まずそれを覚えることから始めなければいけません。

青山 このトシになってそりやシンドイぞな。

国枝 だいじょうぶ。現地のコトバは十五個くらいしか単語がありません。まあ差し当たって簡単なあいさつなんかを覚えておけばじゅうぶんでしょう。

迫田 付け焼き刃じゃな。

福村 泥縄も甚だしいわい。

国枝 まず「こんにちは」は「マシユーカー」と言います。「マシユーカー」はい、みなさんで。

五人、声を揃えて復唱する。

国枝 ベリー・グッド。さて次に「わたし」は「イリ」です。「イリ」というのは便利な単語でして「わたし」の他に場所を指して「ここ」とか、ものを指して「これ」とか、要するに近いものならなんでも「イリ」で済みます。「わたしは元気です」が「イリ・マシユーカー」。はいどうぞ！

五人、声を揃えて復唱する。

半分くらい「いりますか」と発音しているようだ。

国枝 はい結構、たいへん結構。もう結構。

今藤 自分が「イリ」じゃろ、相手のことはどう云うんじゃろか。

国枝 シルバニア語には「あなた」に当たる二人称はありません。

福村 ない？

観音崎 なかったらどうするんじや。

国枝 名前を呼べばいいわけです。

青山 名前が判らんかったらどうする。

今藤 そうじゃな。

国枝 指さすとか肩を叩くとかすればいいわけです。

迫田 遠くにいたらどうする。

今藤 そうじゃそうじゃ。

国枝 石でも投げたらいいいわけです。

観音崎 石が落ちてなかったらどうするんじや。

今藤 そういうこともある。

福村 万が一石が当たって死んでしまったら誰に云えばいいんじや。

今藤 そりゃ大変じゃ。

迫田 そんなに簡単には死なんじゃろ。

観音崎 当たりどころが悪きゃあ死ぬぞい。

今藤 人生は当たりどころじゃ。

青山 待てよ、そしたらわしらが石を投げられる場合もあるわけじゃろ。

今藤 恐ろしいことじゃ。

観音崎 お互い名前が判るまで石の投げ合いじゃ。

迫田 そうなったらもう戦争じゃ。

福村 総力戦じゃ。

今藤 勝てるかのう。

青山 今度は勝つぞ。

国枝 皆さん、皆さん、皆さん。どうぞお静かに。

老人たち、静かになる。

国枝 想像力が豊かなのは結構ですが、シルバニアの人たちはたいへん穏やかな人ばかりです。だいじょうぶです。

老人たち、それでも心配そうにザワザワしている。

観音崎 (恐る恐る) あもう、もしも、もしもじゃな…

国枝 はい？

観音崎 相手を呼ぶ場合と、本当に石を投げて相手を痛めつけたい場合との区別をじゃな…どうやって…

国枝 はい！ 他になにかご質問は！

青山 (挙手しつつ) 数はどうやって数えるんかいのう。

国枝、ノートを見る。

国枝 ええと、1は「サラ」ですね。

青山 2は？

国枝 「サラサラ」。3は「サラサラサラ」。

青山 そんなら4は「サラサラサラサラ」か。

国枝 4は「ザラ」です。

今藤 もう繰り上がるのか。

福村 4進法かいな。

国枝 いいえ、5も「ザラ」です。4から上は全部「ザラ」ですね。

青山 そりやまたえらく大らかな。

国枝 大らかです。あと基本的なところで、正しいとかわかったとかいう意味の「マジ」。

迫田 マジ？

国枝 英語で言うイエスと思えばいいでしょう。

観音崎 じゃノーは？

国枝 ノーは「マジ」です。

迫田 マジ？

青山 おんなじじゃなかあ！

福村 あんたどこの生まれじゃ。

国枝 いやいや全然違いますよ。よく聞いてくださいよ。イエスが「マジ」。ね。で、

ノーが「マジ」。

青山 …おんなじタイイ！

福村 だからどこの生まれじゃ。

観音崎 あんたそりや首を振る方向が違うだけじゃないか。

迫田 よく見てくださいの間違いじゃろ。

国枝 オールオツケー！ 通じればいいわけです。そのほか「モール」が「人間」。「ボ

コロ」が「しゃべる」で「聞く」が「ペール」。

青山 ぼ、ぼ…

今藤 そんなに覚えきれんぞ。

国枝 例えばあなた、青山さんですか、わたしが喋ってあなたが聞く、という場合、

「イリ・ボコロ、アオヤマ・ペール」というわけです。マジ？

青山 マジ、マジ。

国枝 詳しくは「シルバニア生活マニュアル」に書いてありますから、よく読んでく

ださいね。

福村 そんなもんがあるなら最初から云わんかい。

国枝 そんなわけで、わたしはそろそろ失礼します。どうかお元気で。皆さん、トゥ

グア、トゥグア。

国枝、さっさと退場。

青山 おい。おい！

今藤 行ってしまった。

福村 無責任極まりないわい。

迫田 最後になんか云うてたぞ。

観音崎 塔がどうしたとか…

青山 さっそく調べたらどうじゃ。

今藤、渡されたマニュアルを見る。

今藤 ああ、あつたあつた。「トウグア」。

福村 どういう意味じゃ。

今藤 ええ、マシューカの反意語。さようなら。消える。人がいなくなる。ものがない。元気がない。

観音崎 なるほど。

青山 意味が広いんじゃない。

福村 だだっぴろいわい。

今藤 使い方の例。「イリ・トウグア」、わたしはもう死ぬ。

観音崎 じゃ、さっきの「皆さん、トウグア、トウグア」と云うのは。

老人たち …。

迫田 不吉な予言を残していきおったのう…。

中抜け

ヘリの音。

観光客姿に化した国連軍兵士（綿貫少佐と久能軍曹）登場。
シルバニアの荒野に立つふたり。

久能 少佐。…綿貫少佐！

綿貫 少佐はよせ。擬装中だ。

久能 擬装って…誰に対してですか。

綿貫 …。

見渡すかぎりの平原。

綿貫 まあ、なんだ、内なる自分に対してというか、母なる自然に対してというか…

久能 なんでも結構ですが。キャンプ設営地点を指示願います。

綿貫 …うん。なるべく日陰を選べ。

久能 日陰？

綿貫 そうだ。

久能、太陽を見る。あたりを見回す。最後に綿貫の顔を見る。

綿貫 なんにも言うな。どこでもいい。

久能 了解。

久能、準備を始める。

中抜け

三人娘、優雅にお辞儀する。

リンドウ イリ・リンドウ。マシューカ。

今藤 なんて云うとるんだ。

福村 自己紹介だろ。

今藤 ああ、ええ、イリ、今藤、マシユーカー、マシユーカー。
青山 うまいうまい。

迫田 (小声で) なんて名前だつて？

今藤 「名前」つてどう云うんだ？

福村 ええと、(マニュアルを見る) マキタ。

今藤 えー、サラ・マキタ・ボコロ。

リンドウ (につこり笑つて) リンドウ。

迫田 リンドウ。

青山 竜胆りんどうじゃ。

観音崎 可愛らしい名前じゃのう。

リンドウ リンドウ。マジ・マジ。

福村 合つてるとき。

チカリイヤア マシユーカー・イリ・チカリイヤア。

迫田 いかりや？

チカリイヤア チカリイヤア。

青山 いかりやサンじゃな。マシユーカー、マシユーカー。

観音崎 考えようによつては可愛らしい名前じゃ。

ジアラ イリ・ジアラ・マシユーカー。

迫田 …。

青山 JR…かな。

今藤 変わった名前じゃのう。

福村 マシユーカー。JR。

老人たち、声を揃えてあいさつする。

今藤 竜胆サンに、いかりやサンに…

老人たち JR。

青山 やあ覚えたわい。

観音崎 石を投げずに済むのう。

福村 なんでJRだけ呼び捨てなんじゃろ。

迫田 そりゃああんた…なんでじゃろか？

青山 なんとなくそうなつてしまうのう。

今藤 あんなもん呼び捨てでじゅうぶんじゃ。

観音崎 そうじゃそうじゃ。

青山 たかが元国鉄じゃろが。気取りおつてからに。

観音崎 わしら論点がずれとりやせんか。

娘たち …。

老人たち …。マシユーカー、マシユーカー。

愛想笑いをする老人たち。

今藤 それにしても、他の人たちはどこにいるんかいのう。

青山 娘三人だけの出迎えというのも妙じゃなあ。

観音崎 聞いてみたらどうじゃ。

今藤 ええと、どう聞けばいいんじゃないやろ。

老人たち、マニュアルと首っ引きで相談する。

福村 人がモールじゃろ？

青山 他の人達ということは…。

相談がまとまる。

今藤 よし、いくぞ。えー、イリ・ペール。ザラ・モール、マシユーカー？

観音崎 えらく簡単になつとるのう。

青山 ま、あんなもんじゃろ。

娘たち、顔を見合わせてる。

リンドウ ザラ・モール・トウグア。

今藤 え？

チカリイヤア ザラ・モール・トウグア。トウグア・ヴァスラ・グヤール。

青山 なんじゃ？

観音崎 トウグアじゃ。なんじゃつたか。

福村 トウグアじゃろ、サヨナラじゃろが。

リンドウ ザラ・トウグア。マシユーカー・サラ・サラ・サラ。

今藤 たくさんサヨナラ。三人、元気。

観音崎 他の人はみんななくなつたつちゅうことか？

迫田 あるいは死んだか、じゃ。

リンドウ ヴァスラ・グヤール。ミツミ・イリ。

チカリイヤア ミツミ・イリ。

ゼアラ ミツミ・イリ。

娘たち、手に手に老人の手を取って訴える。

青山 なんじゃなんじゃ。

迫田 さっぱり判らんが、なんか助けを求められとる雰囲気じゃのう。

今藤 あー、娘さんや。事情はよくわからんが、わしらで出来ることなら力になろう。

だから安心しなされ。だいじょうぶ。助け合つてやっていこう。わしらそのために来たんじゃないからな。

娘たち …。

今藤 …。

娘たち、今藤の顔を見ているが、安心したように感謝の意を示す。

リンドウ マシユーカー。

チカリイヤア マジ・マシユーカー。

ゼアラ マジ・マシユーカー。

今藤 ああ、いやいや、なんのなんの。

青山 通じとるぞ。

迫田 年の功じゃな。

中抜け

シルバニア近くのジャンゲル。
国連軍第3特殊作戦グループ「やわらぎ」キャンプ。
綿貫少佐が飯盒炊爨の準備をしている。
久能軍曹、登場。

久能 綿貫少佐。

綿貫 おお軍曹。なんかオカズ獲れたか。今日はボンカレーだぞ。

久能 それどころじゃありません。

綿貫 なんだ、どうした。

久能 国連本部より秘密電文を受信しました。…緊急です。

ふたりの軍人の間に緊張が走る。

綿貫 …暗号を照合する。

綿貫、暗号表を用意する。

久能 いきます。アルファ、ズールー、タンゴ、デルタ、ブラボー、エコー、エコー、

チャーリー、ブラウン。

綿貫 …。

久能 …少佐、確認願います。

綿貫 その最後のブラウンってのはなんだ。

久能 えっ。自分は緊張のあまりそんなことを。

綿貫 もう一度だ。

久能 はっ。いきます。アルファ、ズールー、タンゴ、デルタ、ブラボー、エコー、エコー、エコー、チャーリー、ブラウン。ああつ。

中抜け

綿貫 もういいから本文を読め。

久能 はっ。…えー、国連軍第3SOG「やわらぎ」に命ずる。シルバニア国連管理地全域を即時軍事制圧せよ。以上。

綿貫 …。

久能 少佐。

綿貫 準備しろ。出発は奴らが寝静まったころ。午前三時だ。

久能 はっ。

綿貫 暗視スコープを使用する。

久能 わかりました。…少佐。

綿貫 …。

久能 もし奴らが逆らった場合は…

綿貫 ジジイと女だけだ。抵抗があるとは思えん。しかし万一あった場合…

久能 …。

綿貫 敵とみなす。躊躇わずに引き金を引け。いいな。

久能 …。

緊張の面持ちを見合わせているふたり。
銃火機の音や叫び声が重なる。
暗転。
明かりがつくと、頼子がひとりでテレビゲームをやっている。
観音崎、登場。

観音崎 おんや。

頼子 ああ御免、うるさい？

観音崎 ずいぶん早起きじゃのう。

頼子 寝付けないのよ。

頼子 まだ三時よ。夜中。

ACT 5 外電

今藤、マイクに向かう。

今藤

ええと、こりや通じとるんかいな。…(咳払い) ええ、ああ、世界の皆さん、マシユカ、マシユカ。こちらはシルバニア国連管理地域です。わたしは日本から来た海外老年協力隊、略して海老協の今藤と云います。ええ、世界の皆さん。特に国連の方、よく聞いてください。われわれ海老協とシルバニア現地民は、縁あつて手を携え、シルバニアを独立させることにしました。新しい国名はサント・シルバニアとします。これは独立宣言です。今よりのち、シルバニア地方は、国連管理を脱し、また他のいずれの国家にも従属せず、完全なる独立国として末永くしあわせに暮らしていきたいと思えます。…繰り返します。これは独立宣言です。シルバニア地方は、国連管理を脱し…

暗転。

ACT 6 銃弾

中抜け

加久藤 さあ、いい加減に決着を着けようよ。綿貫さんよ。

綿貫 どうしようって言うんだ。

加久藤 あんたらの持ってきた近代兵器とやらはみんなおシヤカになっちまった。ここにあるのは、こいつだけだ。

加久藤、リボルバーを出す。

綿貫 …。

加久藤、リボルバーを握ったまま、綿貫を縛ったロープを解く。

頼子 ちょっと！ なにするつもり？

加久藤 黙って見てな、お嬢ちゃん。

解縛された綿貫はじつと加久藤を睨んでいる。
加久藤、リボルバーの弾を抜く。

加久藤 あんたにも軍人の意地つてもんがあるんだろうから、手を引かって言っても無駄なこった。だったら手っ取り早くカタをつける方法がある。

加久藤、リボルバーの弾丸を全て抜き、一発だけを込め、回転させる。

加久藤 銃は六連発。玉は一発。確率は六分の一だ。

加久藤、銃口を自分のこめかみに当てる。

頼子 なにすんの！

飛びだそうとする頼子を、今藤が押さえる。
ガチン、と撃鉄が落ちる。

加久藤 さあ、あんたの番だ。

加久藤、綿貫に銃を渡す。

綿貫 …。

久能 少佐…？

綿貫、黙って自分のこめかみに銃口を当てる。

久能 少佐ア！

綿貫、引き金を引く。
ガチン、と撃鉄が落ちる。

加久藤 いい度胸だな、綿貫少佐。

綿貫から銃を取る。
銃口をこめかみに当てる。

綿貫 ……ビビってるのはあなたのほうじゃないのか。
加久藤 ……

綿貫 どうした。手が震えてるぜ。
加久藤 舐めるなよ、小僧…。

加久藤の指に力がこもる。
迫田、登場。

迫田 アホか、おまえら。

今藤 リキさん！

青山 あんたケガは？

頼子 だめじゃない寝てなきや。

迫田 ああ、なんでもないわい。ちよつと中風が出ただけじゃ。

加久藤 ……先生。

迫田 トシ坊、あんたまだこんなバカげたことうつつを抜かしたるか。

加久藤 先生、どうかここは…

迫田 まったく、わしや冥土に行ってあなたの親父に会わせる顔がないじゃろうが。

加久藤 先生、ヤクザにはヤクザのやり方ってもんが…

迫田 ああうるさい、わかったわい、いいから貸して見ろ。

加久藤 あ。

迫田、加久藤の銃を奪う。

今藤 リキさん！ なにをする。

迫田 まったく、いい若いもんが命を粗末にしおってから…

迫田、やおら銃口を自分に向けて、三発つづけて引き金を引く。

今藤 あ。

青山 お。

頼子 い。

迫田 ……ホレ。あなたの番じゃ。

迫田、銃を綿貫に渡す。

迫田 手間を省いてやったぞ。残り一発じゃ。降参するなり自決するなり、好きなよ
うにしたらええわい。

加久藤 ……先生、なんて無茶を。

迫田 無茶はあんたじゃ。こんなバカげたことで命を無駄にするもんじゃやない。

加久藤 いや、それもそうなんです…

今藤 まずいじゃろう。

頼子 まずいわよ。

迫田 ん？

綿貫、銃を加久藤に向ける。

綿貫 動くな！

迫田 …ありやあ。

今藤 …ほらな。

頼子 …なんておバカな展開なの。

綿貫 …その女。そう、おまえだ。久能軍曹の縄を解くんだ。
加久藤 玉は一発だ。逃げられねえぞ。

綿貫 まずあんたを撃つ。あんたのポケットには玉がある。
